

エディトリアル

市立恵那病院 副管理者 伊藤雄二

女性の社会進出が進み、国の政策としても女性の権利の向上や労働環境の改善のためのヘルスケアの重要性が議論される中、SRHR(Sexual Reproductive Health and Rights:性と生殖に関する健康と権利)や包括的性教育、さらにはプレコンセプションケアといった用語も目にする機会が増えてはいるが、それらの本来の意味や意義の理解が進んでいるとは言い難い。またセクシュアルハラスメントやDV(Domestic Violence)の問題のみならず、強制性交等罪と準強制性交等罪が統合され不同意性交等罪となり、性的同意年齢の引き下げ等の法改正があったにもかかわらず、ネット社会を背景とした性被害や性暴力に関する報道は枚挙にいとまがなく、状況が改善されているとは言い難い。

このような背景から、本企画では政策としての女性のヘルスケアの概要と現状での問題、特に性被害・性暴力等の問題について、島根大学の河野美江先生に総論として執筆いただいた。さらに性被害者の身近な受け皿として、各都道府県で設置されているワンストップセンターについても、すべての都道府県で十分な対応ができているとは言い難い中、沖縄県の具体的な活動、成果を三浦耕子先生に、医師および助産師の立場で地域に密着してSRHRの普及、さまざまな予防活動に積極的に取り組まれている池田裕美枝先生、櫻井裕子さんに実際の活動と実績を執筆していただき、特に櫻井さんには性犯罪加害者臨床として加害者教育の視点からも執筆いただいた。また女性のヘルスケアの根本的問題である社会的弱者・ハイリスク女性のケアについては、地域において家庭医・産婦人科医として関わり、活動されている鳴本敬一郎先生に、ヘルスケアの重要なコンセプトであるプレコンセプションケア、インターコンセプションケアについては、女性内科・母性内科という視点で広く活動され、先進的な役割を果たされている荒田尚子先生に、その概要のみならず地域で具体的にどのような啓発や教育が必要かという視点を含めて執筆いただいた。

地域の先生方をはじめとした医療従事者に、ジェンダーギャップをはじめとして、SRHRや女性のヘルスケア、包括的性教育などの普及において、日本が国際標準から大きく遅れている現状とその問題点を知っていただき、さらに理解を深めていただくとともに、各地域における女性のヘルスケアやそれをサポートする活動にご理解ご協力をいただけることを願っている。

●編集委員の伊藤雄二先生からのメッセージ

<https://www.youtube.com/shorts/H9cfB6EWdhU>

